

## 臓器病態学Ⅱ

### 授業概要

各種臓器には、それぞれに特有の疾患が存在する。本過程では、これを各論的に取り上げるとともに、病理学的解析の方法論について解説する。

### 担当教員

並河 徹 (主担当)	教授・病態病理学
丸山理留敬	教授・器官病理学
永井秀政	准教授・脳神経外科学
兒玉達夫	准教授・眼科学
吉廻 毅	准教授・放射線部

### 一般目標 general instructional objectives

1. 病理学的診断法の考え方を理解する。
2. 臓器ごとに特有な疾患の病因論、最新の知見、治療法、予防法を理解する。

### 行動目標 specific behavioral objectives

1. 視覚系、特に網膜血管性病変の病態生理と発症メカニズムを概説できる。
2. 神経系分析の多方向性を説明できる。
3. 悪性腫瘍に関する形態学的診断の限界と問題点を説明でき、その解決となる方策について論ずることができる。
4. 現在一般化されている免疫組織化学的、分子生物学的診断方法を説明でき、適切な診断法を選択できる。

### 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率(2/3以上)を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

### 講義内容

並河徹：実際の病理症例を用いて、生検、手術材料を用いた病理形態学的診断法の考え方を解説する。また、病理分野における最新のトピックについて解説する。

丸山理留敬：呼吸器、泌尿器、婦人科領域の症例を中心に、実際の生検、手術材料を用いて病理形態学的診断法の考え方について解説し、臨床科とのディスカッションを通じて、病理診断の臨床的重要性について理解を深める。

永井秀政：てんかんや脳腫瘍などの症例をもとに中枢神経系の病態を解説し、さらに診断や治療、最新の知見などについて、抄読会やセミナー、研究会などで概説する。

兒玉達夫：新生血管を伴う網脈絡膜血管性病変の発症メカニズム、治療法、予防法について解説する。さらに眼科領域で頻度の高い腫瘍性病変の診断、病理組織学的特徴、最新の治療法にトピックスを交えて講義する。

吉廻 毅：一般臨床に普及している新たな画像診断技術を紹介し、臨床症例における、それらの技術の利用法、有用性を解説する。